

## 20 療法選択を行う際に役立てるべく意識調査を実施して

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 透析センター<sup>1)</sup> ME 課<sup>2)</sup> 腎臓内科<sup>3)</sup>  
丸山 貴代<sup>1)</sup> 太田 一恵<sup>1)</sup> 赤羽 ゆう<sup>2)</sup>  
南 聡<sup>3)</sup> 白鳥 勝子<sup>3)</sup> 小口 智雅<sup>3)</sup>

### 【はじめに】

腎臓代替療法の選択は、患者自身が納得し計画的に行われる事が望まれる。当院にて看護師による療法選択の IC を実施する際に役立てるべく、患者の意識調査を実施し、それに基づき考察したのて報告する。

### 【対象及び方法】

H21年6月23日から7月16日の間、当院腎臓内科外来に通院していた患者162名を対象とした。方法としては、血液透析や腹膜透析などについてのアンケートを作成し、本人に記入してもらうか、または自分で記入できない患者には聞き取り記入した。それをCKDステージ別に統計した。各ステージ別人数は、表①を参照。

CKD ステージ	2	3	4	5	合計
男性	23	46	15	13	97
女性	23	19	9	14	65
合計	46	65	24	27	162
平均年齢	50.5	65.6	66	66.3	61.4

表 1

### 【アンケート結果】

問1: 自分の腎臓の働きは何%くらいか?との質問に対し、CKD ステージが上昇するに伴い、自分の腎機能が実際より良いと思っている人が増えていた。(図1)

問2: 血液透析を知っているか?との質問では、全体で60%以上の人がだいたい知っていた。(図2)

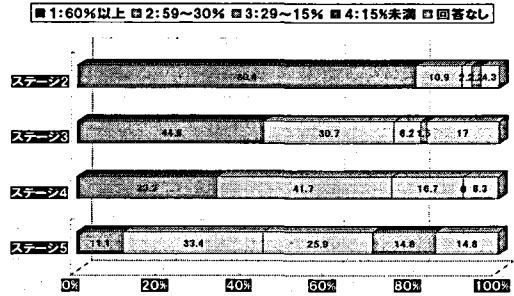


図 1

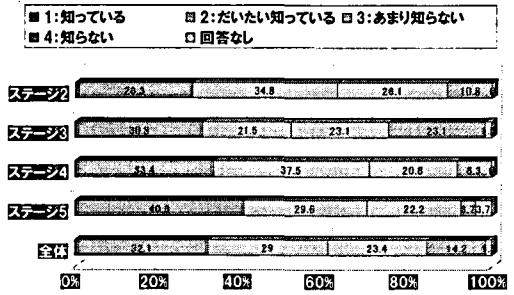


図 2

問3: 血液透析について知りたいか?との質問では、どのステージにおいても、60%前後の人が、少しでも知りたいとの回答だった。(図3)

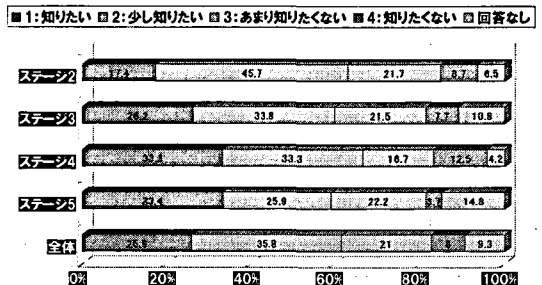


図 3

問 4: 腹膜透析という言葉を知っているか?との質問では、ステージ2~4では、60%以上の人が聞いたことがないと答えたのに対し、ステージ5では、20%代であった。(図4)

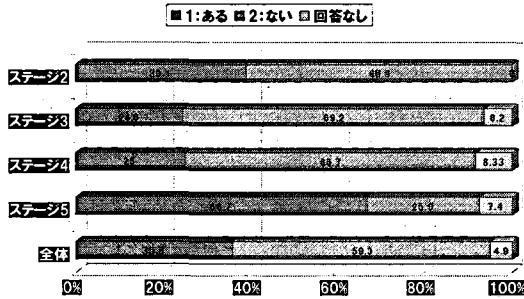


図 4

問 5: 腹膜透析はどんな治療方法か知っているか?との質問では、更に認知度が下がり、少しでも知っている人はステージ2~4で10%代、ステージ5でも30%代と少なかった。(図5)

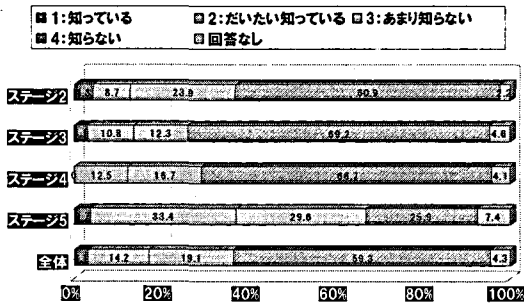


図 5

問 6: 腹膜透析について知りたいか?との質問では、各ステージとも半数以上の要望があった。(図6)

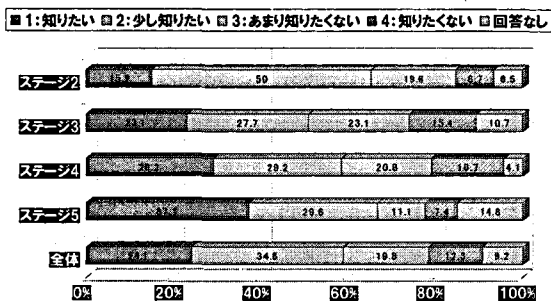


図 6

問 7: 末期腎不全になった時、先生以外に看護師からも詳しく治療方法の選択について説明を聞きたいか?との質問に対しては、聞きたいとする人が60%~80% 全体で73.4%もの高い要望があった。(図7)

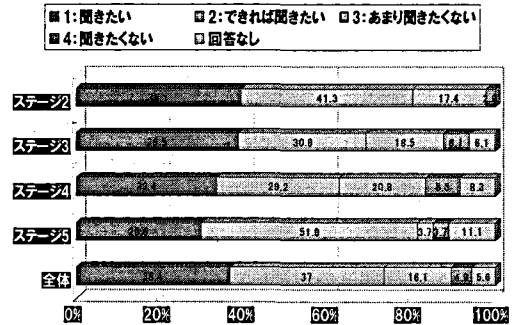


図 7

問 8: 説明日については、ほぼ半数の人が受診日の回答だった。(図8)

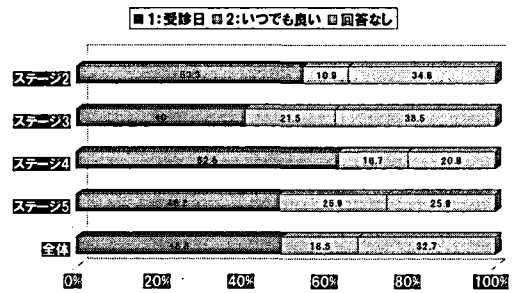


図 8

問 9: 透析センターの見学はしたいか?との質問では、ステージ4以下では20%台 ステージ5でも40.8%の人しか見学を希望しなかった。(図9)

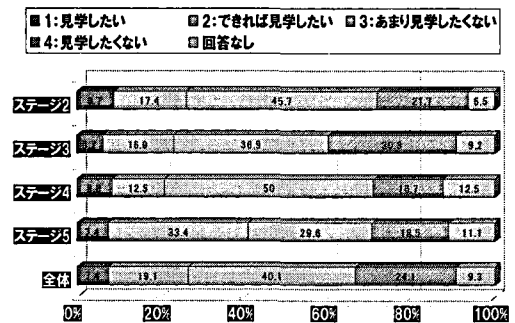


図 9

問 10：透析患者に話を聞いてみたいか？との質問も、見学と同じく要望は少なかった。(図 10)

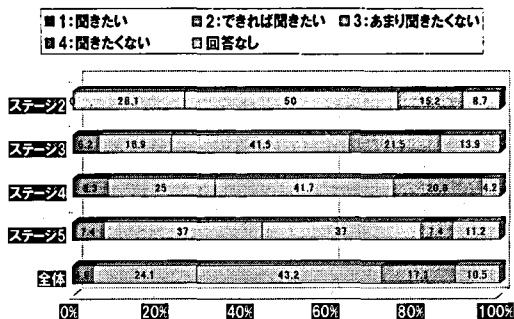


図 10

### 【考察】

- ・医師が患者の腎機能を伝えているにも関わらず、自分の腎機能を正確に認識していないで、実際より良く思っている人が、腎機能が悪い人程多くなっていた。このことよりICにおいても、まず最初に自分の腎機能を正確に理解してもらう必要があると考えられる。
- ・血液透析の認知度は半数以上あるが、腹膜透析に関してはかなり認知度が低い。一度の限られた説明だけでは、理解できないと考えられる。その為、説明の前には療法選択の冊子を渡し、読んできてもらったり、透析のイメージを持ってもらうためビデオなどを事前に見てきてもらう事などが大切だと思われる。
- ・また、腹膜透析についての認知度は低いが、知りたいという要望が半数以上あることから、療法選択のICは早い時期(ステージ4以下)には行う方が良くと考えられる。
- ・医師以外に看護師からも療法選択の説明を聞きたい人は、ステージ2～4でも60%以上、ステージ5では80%以上と多かった。このことより、患者は自分の今後の治療方針について聞きやすい看護師から詳しく説明してもらいたい事が伺えられる。このことにより、看護師によるICの重要性が示唆される。
- ・療法選択のICは、次回受診日に設定し、透析に詳しい透析センターCAPD 兼任看護師が行えるよう配慮する事が望ましいと考えられる。
- ・透析センターの見学や透析患者との対話については、いずれも希望者は少なかった。しかしこ

れは、現実逃避あるいは女性の方など怖くて見たくないとの現れとも考えられる。療法選択の際に必ず見学あるいは、透析患者との対話を設定するのではなく、いつでも見たくなれば見れるという事を伝える事が重要だと思われる。

- ・また、療法選択ICにおいて、疾患に対する受容段階を的確に把握し、今後の生活への動機付けになるように前向きな気持ちを支えるという、患者の精神的援助も看護師として忘れてはならないと考える。

### 【結語】

今回の意識調査において、ステージ4以下では特に腹膜透析の認知度が低かったが、知りたいという要望はステージにかかわらず半数以上にあった。このことから早期に療法選択のICを行う事が望ましいと考えられる。また、看護師によるICの要望も高いことから、アンケートの結果を参考に今後、療法選択のICを実施していきたい。

### 【参考文献】

- 1) 日本腎臓学会  
CKD 診療ガイド 2009  
東京医学社
- 2) 松村満美子  
患者に情報は届いているのか?  
日本腎不全看護学会誌 Vo.11 No.1 APR.2009
- 3) 小川里絵  
当院の療法選択の現状と課題  
腹膜透析 2009